平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	社会参画実習2【企業課題型】(Practice in Social Participation 2)			授業コード	A031188
担当教員名	吉村 充功、鈴木 照夫、高見 大介、泉 丙完、市田 秀樹			科目ナンバリングコード	A20204
配当学年	2	開講期	後期		
必修・選択区分	全学部　必修	単位数	1		
履修上の注意または履修条件	・人間力の育成、就職に必要な科目ですので、積極的に受講して下さい。 ・本科目には「キャリア開発プログラム」クラスと「企業課題挑戦型プログラム」クラスがあります。履修登録クラスを間違わないように注意して下さい。 ・「企業課題挑戦型プログラム」は受講上限が30名程度です。 ・「企業課題挑戦型プログラム」は前期「社会参画応用」からの引き続きの授業となっています。後期からでも受講できますが、途中からの参加になるのでくれぐれも留意してください。 ・「企業課題挑戦型プログラム」は、人間力育成センターが主管となって実施する授業です。 ・「企業課題挑戦型プログラム」は、課題解決型(PBL)授業です。大変やりがいのある実践活動を行えますが、大変な負荷もかかりますので、安易な気持ちで受講することのないように注意して下さい。				
受講心得	・企業や外部協力者への訪問などが多くあります。社会人と同様の扱いを受けますので、無遅刻・無欠席で受講して下さい。 ・ワークショップ時や外部訪問では、ディスカッションや作業などに積極的に参加して下さい。受け身の姿勢では意味がありません。 ・企業課題に対して、提案・プレゼン・実践活動を行います。授業時間だけでは時間が足りませんので、チーム内で時間調整の上、課外も有効に活用して下さい。そのため、今期の履修科目数が極端に多い学生や部活動等の課外活動が多い学生は時間のやりくりが必要になりますので、その点を十分納得して受講するようにして下さい。出席するだけでは単位取得できません。 ・企業や外部協力者への訪問時は先方に失礼のない服装など、マナーに十分注意して下さい。				
教科書	なし				
参考文献及び指定図書	『知へのステップ　第3版－大学生からのスタディ･スキルズ－』 (くろしお出版)学習技術研究会　編著				
関連科目	社会参画入門、社会参画実習1、社会参画応用ほか				

授業の目的	「企業課題挑戦型プログラム」 本授業では、企業の仕組み、働くとはどういうことかを理解しつつ、人間力、社会人基礎力を実践で向上することを目的に、前期「社会参画応用」に引き続き、「企業課題挑戦型プログラム」を実施します。本授業を通じて、一つのことにチームで取り組み、成果をあげることで、社会人基礎力、特にチームで働く力を実践的に身につけます。また、他の教養基礎科目や専門教育科目で習ったことを実践の中で活かすことができるようになることも目的の一つです。
授業の概要	本授業では、協力していただく企業団体(一般社団法人 大分青年会議所)から企業課題(テーマ)が与えられます。そして、学生が興味をもった企業課題に対し、チームで取り組み解決策を提案、実施します。ここでは、社会人としての人(企業の方や顧客など)との関わり方や、チーム内でのコミュニケーション、役割分担による責任を持った取り組み方を習得します。また、調査等から課題発見、企画立案、提案、実践までの一連のプロセスを通じて、情報収集力、課題発見力、企画立案力、実行力の一連のリテラシー能力、時間管理や企業の方との連絡、やりとりによる規律性、プレゼンテーションによる発信力などを磨きます。 【本年度のテーマ(前期からの継続)】 ・まちなかこども職業体験事業「おおいたわくわくワークランド2015」の企画及び運営 【Keywords】 ○チーム活動　○企業課題　○コミュニケーション力　○職業観　○企業　○提案力 ○時間管理　○プレゼンテーション　○社会人基礎力

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： ワークショップ(1)	

■イベント内容精査、準備、工程表など作成	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第 2 週 ： ワークショップ（2） ■各種準備	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第 3 週 ： ワークショップ（3） ■全体計画完成	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第 4 週 ： ワークショップ（4） ■備品調達等	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第 5 週 ： ワークショップ（5） ■リハーサル準備等	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第 6 週 ： ワークショップ（6） ■当日スケジュール、役割等決定	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第 7 週 ： ワークショップ（7） ■各種準備①	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第 8 週 ： ワークショップ（8） ■各種準備②	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第 9 週 ： ワークショップ（9） ■各種準備③	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第10週： ワークショップ（10） ■各種準備④	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第11週： ワークショップ（11） ■最終リハーサル	授業時間内だけでなくチームで議論を深めて下さい。
第12週： 実践（1） ■本番準備	
第13週： 実践（2） ■本番当日	
第14週： 実践（3） ■後片付け	
第15週： ワークショップ（12） ■反省会、振り返り、お礼状の作成	
第16週： EQアセスメント ■EQアセスメント	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅰ:ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	① 時間管理:無遅刻、無欠席で授業に参加できる。 ② 社会への関心:地域産業の魅力を発信することに興味を持ち、積極的に活動に参加できる。
【知識・理解】	③ 企業倫理:企業倫理・CSRとは何かが深くわかる。 ④ 地域産業の理解:大分県内の産業構造について深く理解できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	⑤ 交流:チーム内や企業、外部協力者、イベント参加者等と適切なコミュニケーションが取れる。
【思考・判断・創造】	⑥ リテラシー能力:情報収集、情報分析、課題発見、構想、表現、実行の各リテラシープロセスを 実践することができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		5点	5点	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		10点	5点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		5点	35点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		20点	15点	

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	各種報告書、企画書を評価します。(40点) [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	授業や外部での活動への参加状況を評価します。(5点) チーム活動、実践活動等の取り組み状況を評価します。(30点) 企画等の各種成果発表を評価します。(25点)